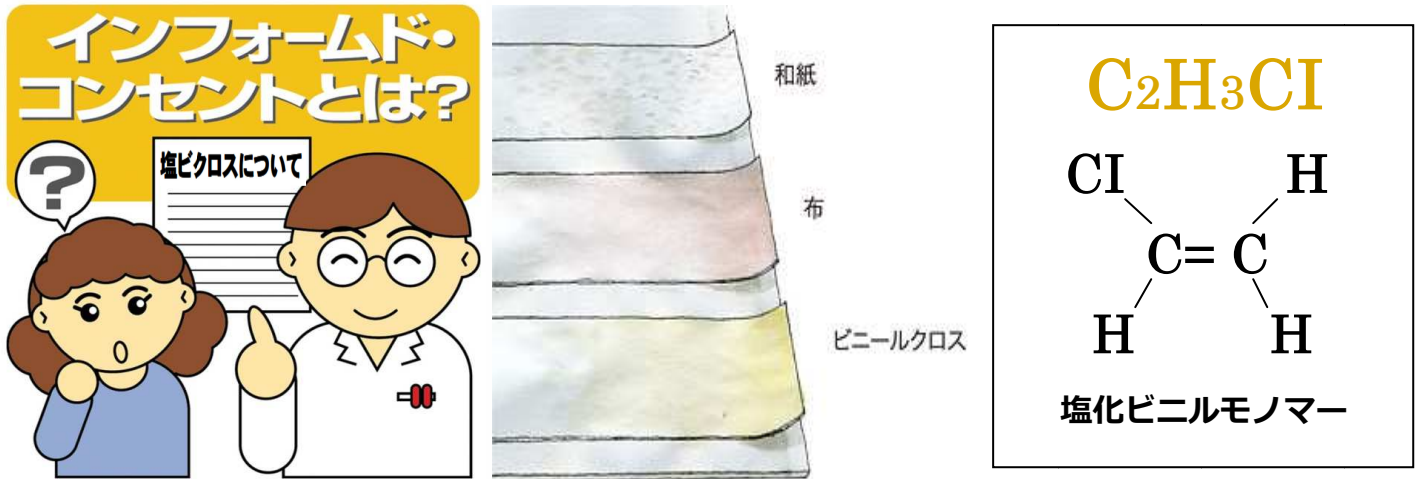


塩ビクロスのインフォームド・コンセント

インフォームド・コンセント (informed consent) とは、「正しい情報を得た (伝えられた) 上での合意」を意味する概念の事です。近年では、病院や薬局でお薬を処方される際に、その効能や副作用について、必ず説明を受け合意の上で、お薬を受け取る様になりました。

これは住宅リフォームにおいても同じ事が言えます。OKUTA では、人体に有害とされる化学物質などを含んだ建材について、正しい情報を得た上で合意の下に使用させていただきます。特に塩化ビニルクロスについては、必ず説明を行っています。



塩化ビニルクロスとは、和紙や布を真似て化学物質にて作られた商品 (内装材) ですが、その原材料を C_2H_3Cl 塩化ビニルモノマーと言います。この**塩化ビニルモノマーには発ガン性**があります。世界保健機関(WHO)の国際癌研究機関(IARC)の発がん性分類では、最上位の「分類1 (発がん性がある)」の対象物質とされています。**経年劣化して塩ビ樹脂の微粉末が飛散し吸引する場合があります。**

原材料が安く商品としては安価な為、住宅内装材として一般的に広く普及しておりますが、健康面でご心配な場合は、非塩ビクロスや自然素材の内装材をお勧めしておりますので、ご相談ください。

【 国際癌研究機関 (I A R C) による発がん性の分類 】

分類	基準	対象物質
1	発がん性がある	ダイオキシン、アスベスト、ベンゼン、C型肝炎ウイルス、 塩化ビニール 、ラドンなど
2A	発がん性の可能性が高い	紫外線、PCB、ホルムアルデヒド、ベンゾピレンなど
2B	発がん性の可能性がある	DDT、クロロホルム、極低周波電磁波、PBB、鉛、4塩化炭素など
3	発がん性の分類ができない	炭塵、水銀、キシレン、フェノール、蛍光、サッカリンなど
4	非発がん性の可能性がある	カプロラクタム(ナイロンの原料)

塩ビクロスの有害性

塩化ビニルクロスの有害性には、大きく分けて下記3つの分類があります。

- ①化学汚染・・・有害化学物質が室内空気を汚染する。
- ②結露被害・・・ビニールで空気を遮断するため。
- ③生物被害・・・カビ、ダニが繁殖する。

【化学汚染】

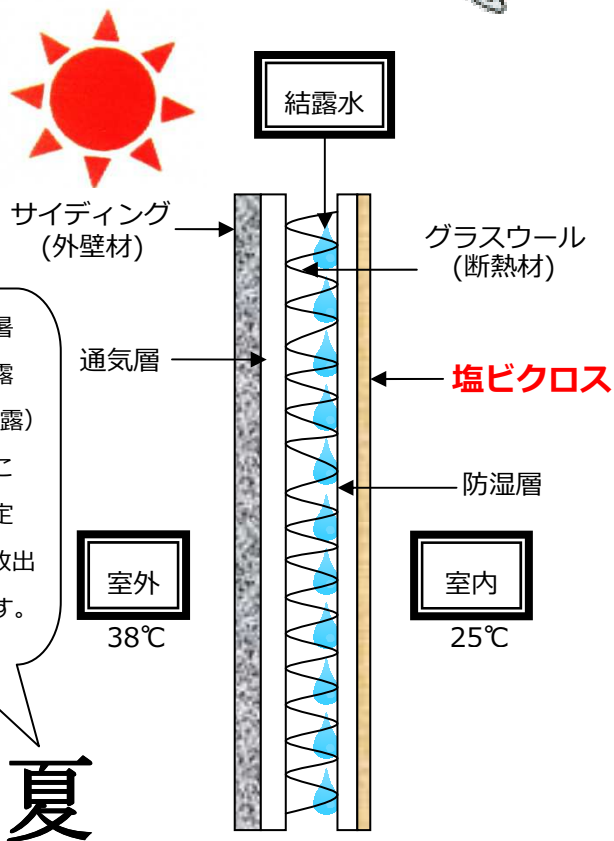
塩ビクロスの原材料である、塩化ビニルモノマーに発がん性がある事は前頁のとおりですが、塩ビクロスには、それ以外にもおびただしい添加物（可塑剤、安定剤、酸化防止剤、難燃剤、防カビ剤など）が配合されています。これらの、添加物から染み出た揮発性有害化学物質は、空気中に揮発して室内環境を汚染します。これらは**環境ホルモン（内分泌攪乱物質）**とされていて、様々な病気を引き起こします。催奇形性(胎児奇形)、生殖異常、ショック肺、腹痛、吐き気、頭痛、目・皮膚・喉へ刺激、咳、咽頭痛…



【結露被害】

塩ビクロスを屋内の内装にピッチリ貼ると室内は密閉空間となります。内外の温度差は、そのまま、内外の湿度差となります。塩ビクロスはビニールなので、空気も湿気も全く通しません。通気性がなく、透湿性もありません。その結果、塩ビクロスを境界面として空気は二分されます。そこに「冷たい」「温かい」の温度差があると、「結露」が始まります。

夏場は壁の中が暑いので壁内が結露します。(逆転結露) グラスウールはこの水分を吸って定着してしまい、放出できなくなります。



【生物被害】

築年数の経った建物で塩ビクロス張りの部屋に入って、まず感じる事が「カビ臭さ」です。カビ発生の条件は、温度・湿度・栄養・酸素ですが、高温の夏場に結露が発生し、塩ビクロスの糊を栄養源とすれば、カビの発生条件は全て揃います。更にそのカビを餌にしてダニが繁殖します。**カビやダニがアレルギーとなり喘息やアトピーなどを引き起こします。**

